

平成 30 年度 第 1 回和泉市公共交通利用活性化プロジェクト委員会 ＜議事概要＞

【概 要】

- ・ 日 時：平成 30 年 7 月 11 日（水）10：00～12：00
- ・ 場 所：和泉市コミュニティセンター 1 階中集会室
- ・ 欠席者：大阪府都市交通課 森永照久委員

【次第】

1. あいさつ
2. 委員紹介
3. 審議事項
 - 1) 和泉市地域公共交通網形成計画策定について
 - ① 地域公共交通網形成計画策定の概要
 - ② 公共交通に係る上位計画・関連計画の整理
 - ③ 公共交通を取り巻く現況の整理
 - ④ 市民アンケートの実施について
4. 報告案件
 - 1) 南横山校区デマンド型交通実証運行報告について
 - 2) 平成 29 年度コミュニティバス利用実績について

【議事概要】

1. あいさつ

＜藤原委員長より、挨拶＞

本日は、お忙しい中、平成 30 年度第 1 回委員会にお集まりいただき、感謝申し上げます。本市の公共交通は地域によって課題は様々であり、今年度、まちづくりと連携した地域公共交通網形成計画を策定し、交通施策を推進していきたいと考えている。また、委員の皆様においては、分科会に入っただき、公共交通について日頃感じていることについて意見交換をさせていただきたいと思っているので、ご協力を重ねてお願いしたい。

また、本日は昨年度実施した南横山校区におけるデマンド型乗合タクシーの実証運行についての結果とコミュニティバスの利用実績について報告させていただきたいと思っている。委員の皆様には本市の公共交通の利用活性化に向けて、積極的な議論をお願いしたい。

2. 委員紹介

＜事務局より、委員及び事務局の紹介＞

＜議長に内田敬副委員長が推薦され、参加委員の承認を得た＞

＜内田議長より、挨拶＞

伊勢副委員長が留学のため、今年度、本委員会に参加させていただいている。公共交通は多くの方の協力によって成り立っているとともに、交通のあり方は市民の住まい方に大きく

関わってくる。和泉市では並行して策定作業を進めている立地適正化計画と連携を図りながら密度の高い議論を行い、実りある計画の策定に向け、皆様のご協力をお願いしたい。

3. 審議事項

1) 和泉市地域公共交通網形成計画策定について

① 地域公共交通網形成計画策定の概要

＜事務局より、資料1に基づき説明＞

内田議長：机上の差し替え資料を再度、確認いただきたい。本日は資料について忌憚のない意見をいただき、共通認識を固めて策定作業を進めていきたい。資料について意見や質問はあるか。

稲沢委員：今回の地域交通網形成計画の策定においてはコミュニティバスだけでなく、地域に存在する交通モード全てを対象にネットワーク計画を策定してほしい。事務局からの話もあったと思うが、スケジュールはタイトである。分科会等で住民意見等をくみ取り、ご検討いただきたい。また、立地適正化計画をはじめ、様々な計画と連携をとり、策定してほしい。

内田議長：全員が集まる委員会の回数が少なく、個別の分科会等の議論を積み上げていくこととなる。気づいたことがあれば、適宜、ご意見いただきたい。また、分科会についてであるが、設置要領に基づき、会長については資料に示したとおり、指名していただいた。資料1及び分科会について、ご了承いただけるか。

(了 承)

内田議長：それでは、次に進む。

② 公共交通に係る上位計画・関連計画の整理

＜事務局より、資料2に基づき説明＞

内田議長：今日の時点では、過去の経緯等も含めてご説明いただいた。特に、立地適正化計画におけるまちづくりの方向性に合わせた公共交通のあり方を考えていくこととなる。分科会においても関連事項の取組を整理いただきたい。

塩 士：各分科会のテーマに沿って、これまでの取組を整理してご紹介したい。

内田議長：立地適正化計画についてであるが、7月21日に検討会が開催される。そこでの議論は庁内でも内容の周知が図られると思うが、個人としても掌握した上で、分科会に参加したいと思う。意見等が無いようであるので、資料2についてはご了解いただいたとしてもよいか。

(了 承)

内田議長：それでは、次に進む。

③ 公共交通を取り巻く現況の整理

＜事務局より、資料3に基づく概要を説明＞

内田議長：詳細については分科会で落とし込んでいくこととなる。立地適正化計画のもとでコンパクトシティ形成支援事業があるが、網形成計画において、明確に内容

を記載しないと支援を得ることができないこととなっている。市内には様々な公共交通があり、税金が投入されて運行されている。この交通網をより良いものにしていくこととなる。事務局からの説明にあったように方向性については、ここで意見をいただき、分科会につなげていきたい。

木原氏：事務局から、課題と方向性を示していただいております、他の地域においても共通する部分がある。8ページに記載の公共交通のカバー状況を示していただいているが、1便/日でも運行していればカバーされているとされており、おおよそカバーされているとされていても、実際にはカバーできていないところもあると思う。また、信太山の駐屯地が空白地域になっているが、方向性は示されていないように思う。これらの公共交通空白地域への対応については分科会で議論するという事でよいのか。

塩 士：移動支援分科会において議論することを想定している。

内田議長：公共交通カバーの状況においては、1便/日でも運行されていても空白地域として見られていない。そのあたりの補完を立地適正化計画と合わせて考えていく必要がある。北部の市街地では鉄道は利用しているが、駅までのアクセスはバスがあるにも関わらず、送迎対応となっている。分科会や意見交換会でお互いに案を出せるように、微力ながら考えていきたい。資料3について、その他に意見はないようであるので、ご了解いただいたとしてもよいのか。

(了 承)

内田議長：それでは、次に進む

④ 市民アンケートの実施について

＜事務局より、資料4に基づき説明＞

内田議長：スケジュールがタイトであり、直ちに作業に入ることとなる。和泉市で実施してきたアンケートや他の自治体で実施したアンケートを参考に作成している。対象者は抽出済みであり、アンケート内容は修正可能である。また、地区で30票以上は回収できるようにサンプル数を抽出しているので完全無作為ではないことだけご了承いただきたい。

藤原委員長：問7の行政負担の設問について、回答者が設問の意図がはっきりわかるように表現を工夫してほしいと思う。

内田議長：表現をもう少し丁寧にするということか。

藤原委員長：税金は優先順位をもって投入することとなる。そのため、設問については、他の施策より優先して交通施策に税金を投入すべきかを問うことが伝わる表現としてほしい。

塩 士：説明文の表現を工夫したい。印刷工程のこともあるため、会議終了後、相談させていただきたい。

稲沢委員：公共交通に市の財源が投入されていることを認識してもらうことは必要なことである。市民からは「公共交通を残してほしい」「料金を無料としてほしい」等の意見があるかもしれないが、先ほどの意見を踏まえ投げかけてほしいと思う。

内田議長：限られた財源の中、利用状況が低調な路線もあり、地に足の着いた運行内容を検討いただきたい。また、設問4－3の選択肢8は対象とする公共交通が明確になるようにした方がよい。回答者に具体的な交通モードを記入してもらうこと等を検討いただきたい。2点の指摘に事項についての対応は議長一任でご理解いただきたい。それでは、報告案件について事務局より、説明願う。

4. 報告案件

1) 南横山校区デマンド型交通実証運行報告について

＜事務局より、資料5に基づき説明＞

内田議長：第2回委員会において、結果の考察を示すことを予定しているのか。

事務局：第2回委員会で提示することを予定している。

内田議長：時間の関係もあり、報告案件2について説明願う。

2) 平成29年度コミュニティバス利用実績について

＜事務局より、資料6に基づき説明＞

内田議長：地域代表委員の意見を伺いたい。

松井委員：和泉市内において温度差があり、南横山に力が入っているように思う。横山地区は中学と南部リージョンセンター、スーパーオオクワに行くことができず、この組み立てがおかしいと思っており、地域において差が生じないようにしてほしい。

向井委員：幸校区にはコミュニティバスが運行していたが、利用者が少なく、今年停留所が廃止になった。駅や南海バス、自家用車の利用者が多いためかと思う。地域を挙げて公共交通の利用を進めていく。

池辺委員：公共交通について関心を持っている。南横山の地元の方が委員から外れており、生の声が聞こえないように思われたが、分科会にはメンバーに含まれている。分科会の意見を参考にしていきたい。

宮本委員：緑ヶ丘は駅に近く、公共交通の利便性等について実感がないため、これから勉強していきたい。

榎本委員：昨年、地域の高齢者からの要望があり、南海バスにお願いして通勤時間外の運行を増やしてもらったが、利用が一桁と少ない結果であった。高齢化の進行する社会では公共交通が必要であると思っている。

脇田委員：この地域で住み続けるためには、公共交通は必要不可欠である。公共交通を活性化するために老人会でもいろいろと連携を図っていきたい。

内田委員：地元の方からご意見をいただいた。分科会においては、焦点を絞り、より良い方向に話を進めていきたい。最後に、本日の資料や全体をとおして意見があれば発言をいただきたい。

木原氏：デマンド交通について率直な感想ではあるが、冬季間の短い中でそれなりの成果があったように感じている。デマンド交通を含め、公共交通に関する成果等については早めにオープンにしてほしい。近隣には補助金を得て南海バスが運行しているので、既存の交通事業者と話し合っ事業を進めて欲しい。

岩佐委員：人口減少が進む中、特に生産年齢人口の減少が顕著であり、収入が減っている。
また、乗務員の採用が厳しく、環境を変えることが必要な状況である。どのようにして運行を維持できるかが課題であると認識している。

内田議長：分科会が7月25日に予定されており、本日の意見も含め、厳しい話になることになるかもしれないが、ご協力をいただきたい。

松井委員：横山地区は、住民同士が見守りあってお互いに助け合っている。

内田議長：やはり、皆さんが当事者意識をもってやることが大切である。本日予定していた内容は以上である。それでは事務局に進行を返す。

事務局：本日は長時間にわたりご議論いただき感謝申し上げます。引き続き、ご協力をお願い申し上げます。

－以上－

【会議の様子】

